

快晴

ストック

いつか見た夢の続きに、今立っている。いつも夢見ていたその続きを、今歩き出そうとしている。

夢はそのまま夢のまま、いつまでも殆ど空想で、手を伸ばしても届かないどころか、何処に向かえば良いのかさえ覚束ず、輪郭すらも与り知らぬまま生涯を閉じるのだろうかと思望していた。

夢で飢えや雨風は凌げないと言い訳して、現実的な選択なんだと言い聞かせ、誰にも打ち明けぬまま本心をも欺いて、刻一刻と老いぼれていく。育まれることのなかった夢は、人知れず心残りへと育つ。

きっとそれは多くの人にとってそうだから、横たわり、顔れて見るあの夢と同じ名前が付いているのだろう。

けれど私のそれは叶えなければ死んでしまう類いのもの。絵空事のようにいて、質量を伴うもの。確かな熱を持って身体中を駆けめぐり血潮。幾ら無視して気付かぬふりをして、耳を塞いでやり過ごそうとしても、目の前の雑事に心を砕いていても、そこかしこに同時にあるもの。

いつまでもは看過し得ない、私自身が生まれた理由。

選んでしまえばこれまでの歳月こそが緩やかな自殺だったのだと思い知った。

心地好い音楽も、偉大な絵画も、大切な物語も皆、いつしか焦燥へと変わったから、成さぬという選択は最早あり得ない。

歩こう、行く先が暗闇で満ちていても。今この場所を離れる勇気が沸かずとも。踏み出すのなら、その一步は前人未踏の自分だけの道。未知なるものもやがて既知となる。

耐え抜いた痛みも、忘れたい悲しみもあるけれど、それでも今の自分があり、全部が糧だったと言えるから、まだ見ぬ怖れも手放せる。

いつか見た夢の続きに、今立っている。いつも夢見ていたその続きを今、歩き出している。

この夢の行き着く先はきっと、果てしなく澄み渡っている。

この度は拙作「快晴」をご覧頂きありがとうございます。

本作は、とある書籍への寄稿依頼を元に作成いたしました。思うところがあってこのように一般公開することといたしました。

どちらかと言えば、自らの夢を叶えるにあたり、気持ちの移り変わりや決断に至った考え方等をまとめた自己啓発本めいた雰囲気を出そうと思い、言葉をまとめました。

だから、夢を絶対に叶えるという気持ちを強く表現するためにタイトルを「快晴」といたしました。

もし、何かを変えたいのに、変えるだけの勇気が出ないだとか、生きることと夢とを天秤にかけた時、生きることを選びながら何か違うと感じているような方に気軽に楽しんでいただければ嬉しいです。そして何かを変える選択をするキッカケの一助となれば、これに勝る喜びはありません。

さて、最後にご紹介を少々。いつもは恋愛小説を書いています。パブーでは公開していない作品も多数公開しておりますので、ご興味等ありましたら、本サイトである「[恋愛小説専門サイト・「夢の扉」](#)」を合わせてご覧下さい。

またあなたにお会い出来る日を楽しみにしております。